

異常巻アンモナイト類の分類学的研究

～バラバラ化石がもたらした 130 年の謎～

自然・環境評価研究部 地球科学研究グループ

生野 賢司



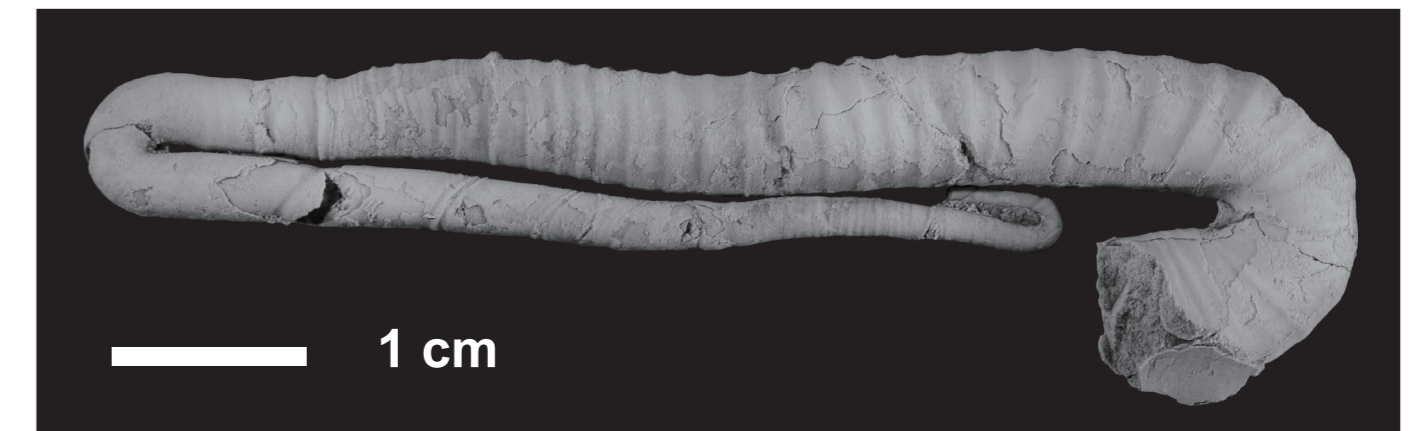
3 億 4000 万年以上にわたって存続し、1 万を超えると言われる多様な種が出現したアンモナイト類は、離れた地点の地層同士を対比したり、海洋環境の変化によって生物の種類がどのように増減・変化したのかを解き明かしたりするうえで、重要な研究対象です。アンモナイト自体は古くから研究が続けられていますが、過去の研究結果には見直しが必要なことがよくあります。例えば、長い棒が折りたたまれたような形の殻をもつ、白亜紀の「ポリプティコセラス」(*Polyptychoceras*) です。このアンモナイトの化石はふつう破片化しており、多くの種が断片的な標本に基づいて分類されています。ところが、1890 年代に多くの種が記載された後、より多くの部分が保存された化石が見つかり、「種」を分けすぎている可能性が指摘されてきました。というのも、種分類で重視されてきた殻表面の装飾（凹凸）が、成長に伴って著しく変化する種類が存在するのです。現在私は、詳細な産出位置がわかる状態の良い化石を集めて丹念に観察し、様々な形の違いが種による違いなのか、成長段階による違いなのか、個体差なのか、時代による違いなのか、地域差なのかを調べ、種分類の改訂や系統進化の解明に取り組んでいます。



化石を集めるだけでなく、地層も調べることで、出現・消失の時期や生息環境を推定できます。



ポリプティコセラスの部分化石。見つかる化石の大半はこのような破片です。



個体の全体が保存されたポリプティコセラスの標本。殻がトロンボーンのような形をしています。